



令和2年5月15日

各位

会社名 大黒屋ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小川 浩平
 (コード番号 6993 東証第二部)
 問合せ先 財務経理部長 塩津 友輝
 (TEL. 03-6451-4300)

特別損失の追加計上及び通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社グループは、令和2年3月期第4四半期連結会計期間において下記の通り特別損失（事業整理損失引当金繰入額及び事業整理損失）を計上いたしましたのでお知らせいたします。

また、令和2年2月12日に公表しました令和2年3月期通期連結業績予想数値と本日公表の実績値との差異が発生しましたので、合わせてお知らせいたします。

記

1. 連結財務諸表における特別損失（事業整理損失引当金繰入額及び事業整理損失）の計上について

令和2年3月期第3四半期連結累計期間において、当社グループは特別損失として事業整理損失引当金繰入842百万円を計上し、既に確定した損失673百万円を事業整理損失（同特別損失）に振替えておりましたが、令和2年3月期第4四半期連結累計期間において事業整理損失引当金繰入を新たに187百万円追加計上するとともに、同第4四半期連結会計期間に確定した損失309百万円を事業整理損失（同特別損失）に振替えました。

なお、当該特別損失は、いずれも当社の英国における連結子会社である SPEEDLOAN FINANCE LIMITED（以下「SFL」という。）が、令和元年9月17日に事業を撤退する方針を決定し、これに伴い生じると想定される店舗及び人員整理費用を計上したものであります。また、事業整理損失引当金繰入については、令和2年3月期第4四半期連結累計期間末において今後撤退において見込まれる店舗整理費用等を改めて見積り計上しました。

2. 令和2年3月期通期連結業績予想数値と実績値の差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,255	217	△346	△1,662	△14.21
今回実績値 (B)	17,270	136	△391	△1,844	△15.77
増減額 (B-A)	15	△81	△45	△182	
増減率 (%)	0.0	△37.3	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (平成31年3月期)	20,439	△163	△722	△1,039	△9.19

3. 差異の理由

営業利益につきましては、主に、国内主要子会社である株式会社大黒屋において、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症（以下「COVID19」という。）の拡大による外国観光客の減少や外出自粛政策等によりブランド品相場が下落したため、粗利益率が悪化し予想値を127百万円下回りました。なお、同社ではCOVID19の影響でブランド品相場が下落傾向にあった1月以降、手持在庫を市場で売却し早期の在庫圧縮を図った結果、令和元年12月末比960百万円在庫（同比26.0%減少）を減らした事で商品評価損の計上を回避し在庫回転率及び粗利益率の大幅な悪化を防ぐ事が出来ました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、主に、以上に加え、上記1.に記載しました通り、SFLを中心とするグループの事業撤退に際しての事業整理損失引当金繰入額187百万円を令和2年3月期第4四半期連結会計期間に追加計上したことによるものであります。

以 上